




三角形を描けない 子ども達

聖徳大学短期大学部保育科
鈴木みゆき

幼児の睡眠に関する保育の場の認識

- ✎ 全国1200名余の保育者（幼稚園教諭・保育士）の約8割が「今の子どもは睡眠不足」と感じ、「朝体温が低く活動にのれない」「朝ボーンとしている」「無表情」「リズムを伴う遊びが稚拙」等と相関がみられた（鈴木 2000）。
- ✎ 1歳児～5歳児の睡眠-覚醒リズムの調査からわかったこと（鈴木 2001～2004）
 - 1) 午睡から起こされる幼児には、睡眠 覚醒リズム（就眠時刻・起床時刻）が不整な場合が多い。
 - 2) 就眠時刻が不整な児は本人の意思に任され寝ている割合が高い。



3)睡眠 覚醒リズムが不整な児は、保育者が「気になる子ども」と思っている割合が高い。

4)保育者が「気になる」不整な児のエピソードをKJ法で分類すると以下になる。

ボーっとしていて午前中の活動にのれない

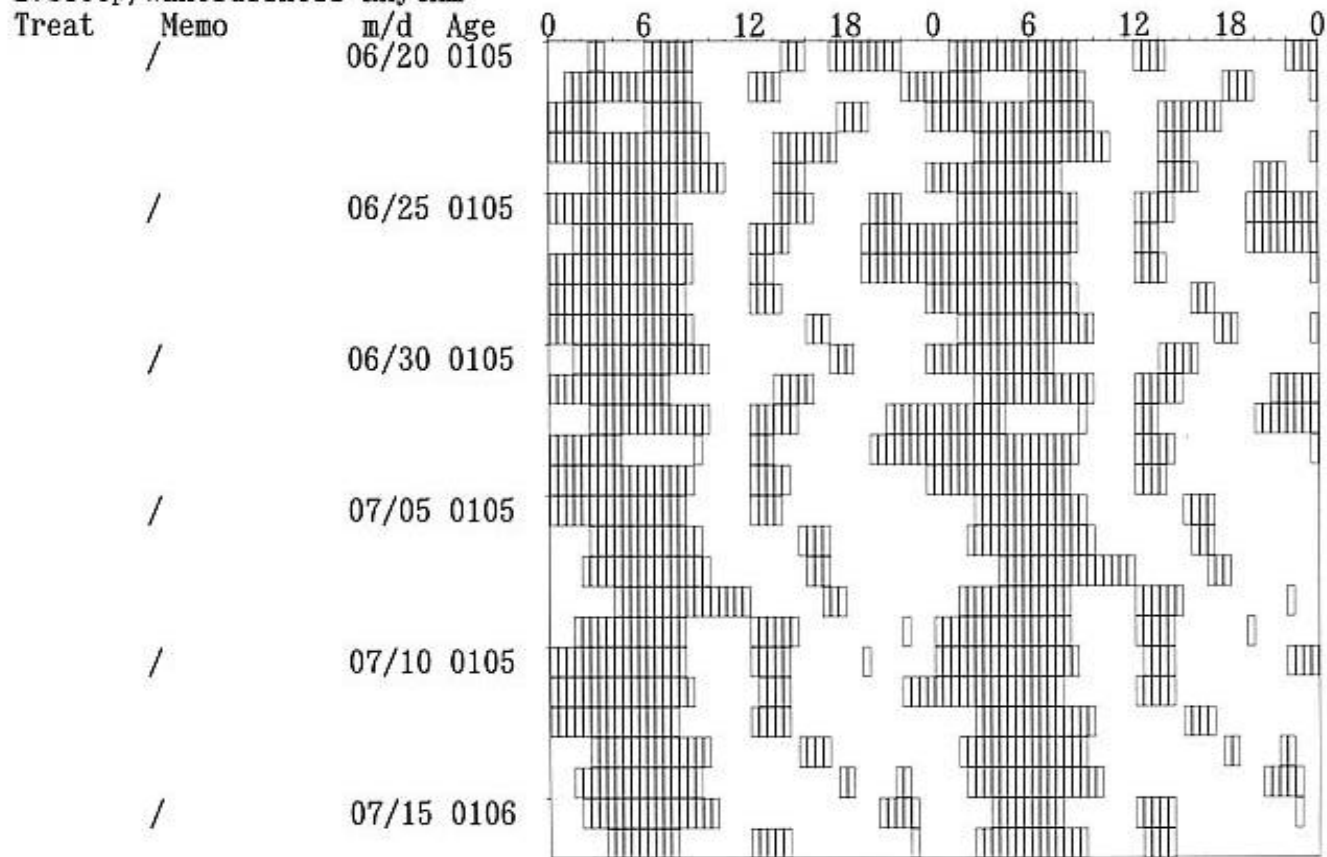
無表情で自分の気持ちを表しにくい

理由のない攻撃性を示す

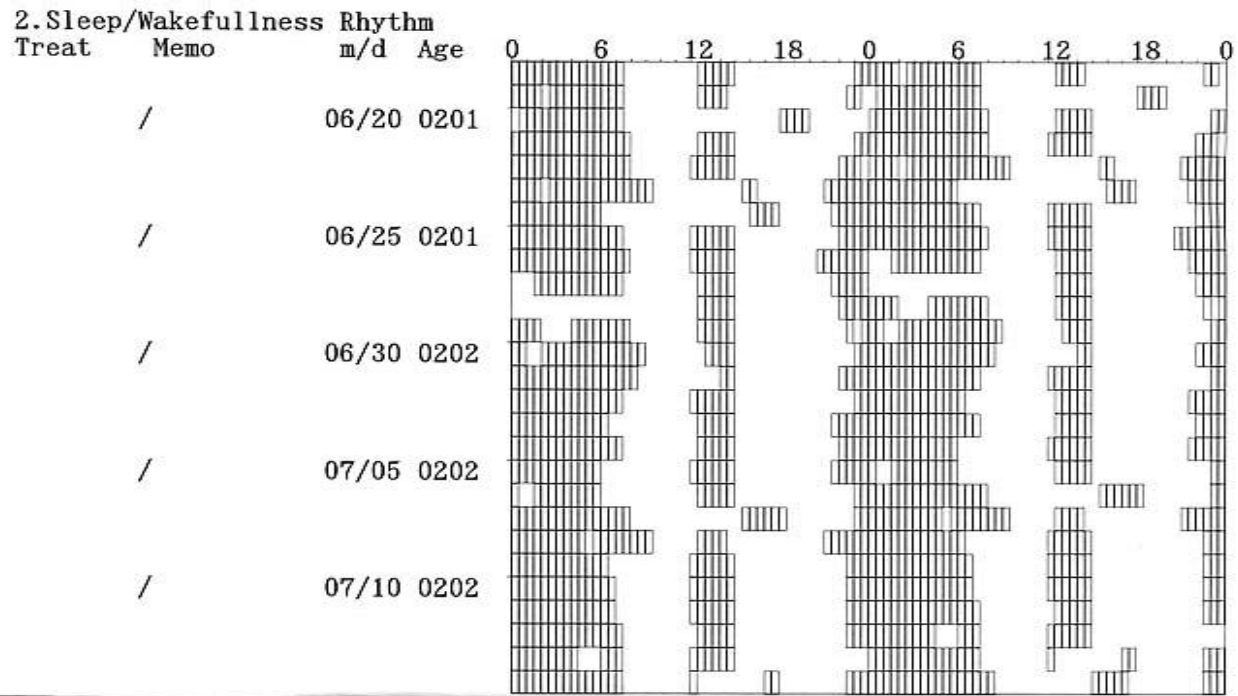
特定のものにこだわり、他(ひと)に無関心

午睡から起こす1歳児(1)

2. Sleep/Wakefulness Rhythm

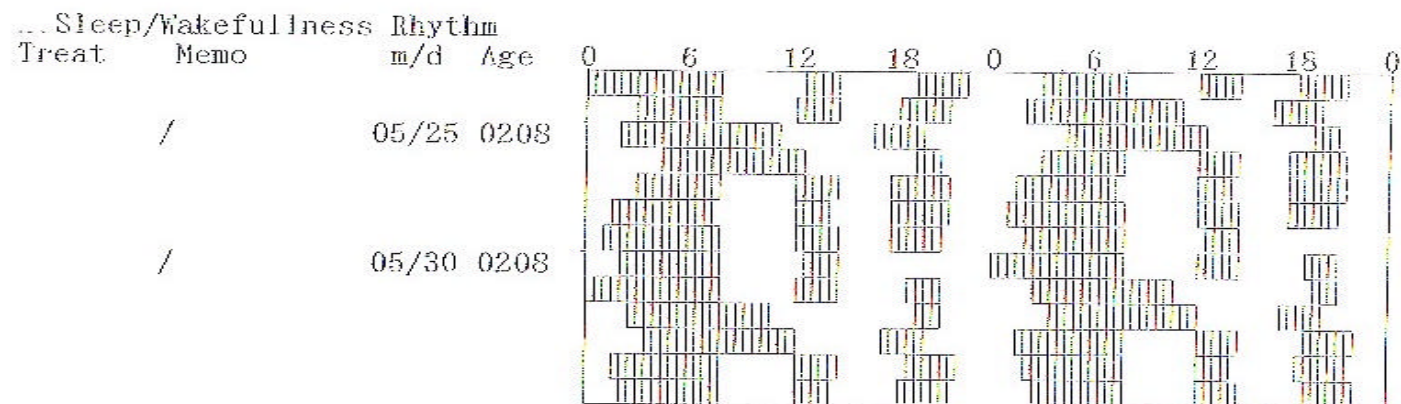


午睡から起こす1歳児(2)



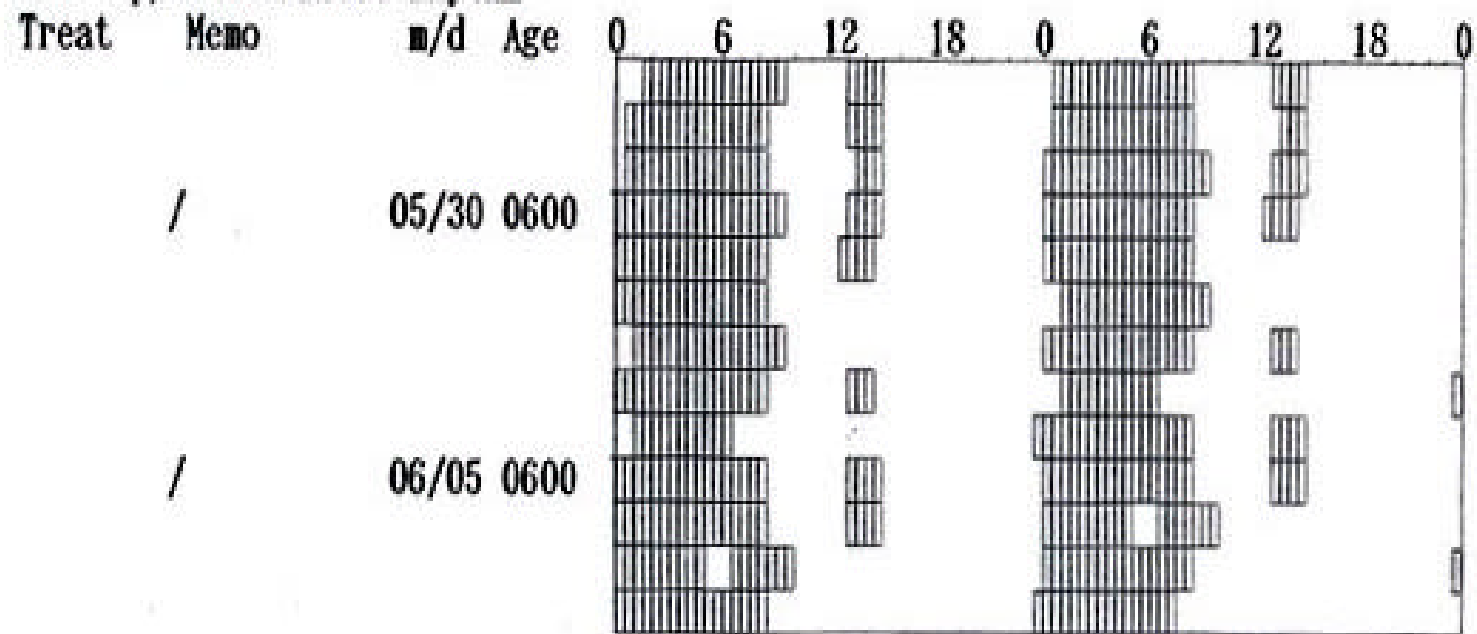
睡眠表 遅寝の2歳児

表4 M児の睡眠表 (double plot 法)



睡眠表 遅寝の5歳児

2. Sleep/Wakefulness Rhythm





目的

- ✎ 幼稚園・保育所に通う5歳児の睡眠 覚醒リズムの実態を把握する。
- ✎ 睡眠 覚醒リズムに対する保護者の意識を把握する。
- ✎ 保育者との面談調査を通して、保育活動と児の睡眠 覚醒リズムとの関連を考察する。
- ✎ 三角形の模写を通して、児の斜線構成力と上記の結果との関連を考察する。

三角形の模写について

- ✎ 斜線の知覚や構成は、垂直や水平な直線のそれと比べて困難である (斜線効果現象 :Appelle1972)
- ✎ 4歳半から5歳半頃に二次元平面で、斜線を構成する能力が著しく発達する (近藤 1993)。
- ✎ 3, 4歳児は図形構成要素の象徴的部分に焦点を当てるが、5, 6歳になると、全体的な枠組みを求めて捉えようとする (田中敏隆 1966)。
- ✎ 田中ビネー知能検査」5歳の課題である。
- ✎ 新K式2001」と新K式1983」の比較において、図形模写の50%通過率年齢が高くなっている(郷間2003)
- * 斜線 2本以上あること、角が認識・表現されていること、図形が 3本の線で囲まれていることをチェックポイントとした。



方法

- ✍ 2002年6月都内近郊9箇所の公私立幼稚園、保育所に通う5歳児クラスに在籍し、本研究に関するインフォームドコンセントを得られた226名に対し、2週間の睡眠記録と養育者へのアンケート、そして午前中の保育活動に三角形模写を行った。
- ✍ 回収後、保育者と個別及びグループで、半構造化面接を行った。

結果 児の状況

✍ 月齢 :61~72ヶ月計226名

✍ 男児107名、女児118名、無記入1名

✍ 睡眠状況 :

起床時刻平均 6:48AM(SD0.58h)

就眠時刻平均 9:34PM(SD0.54h)


* SDが1.5h以上の児を不整群と操作的定義する

正常群188名、不整群34名、不備4名

三角形 :模写できた児184名、 できなかった児38名

結果 保護者のアンケート解析

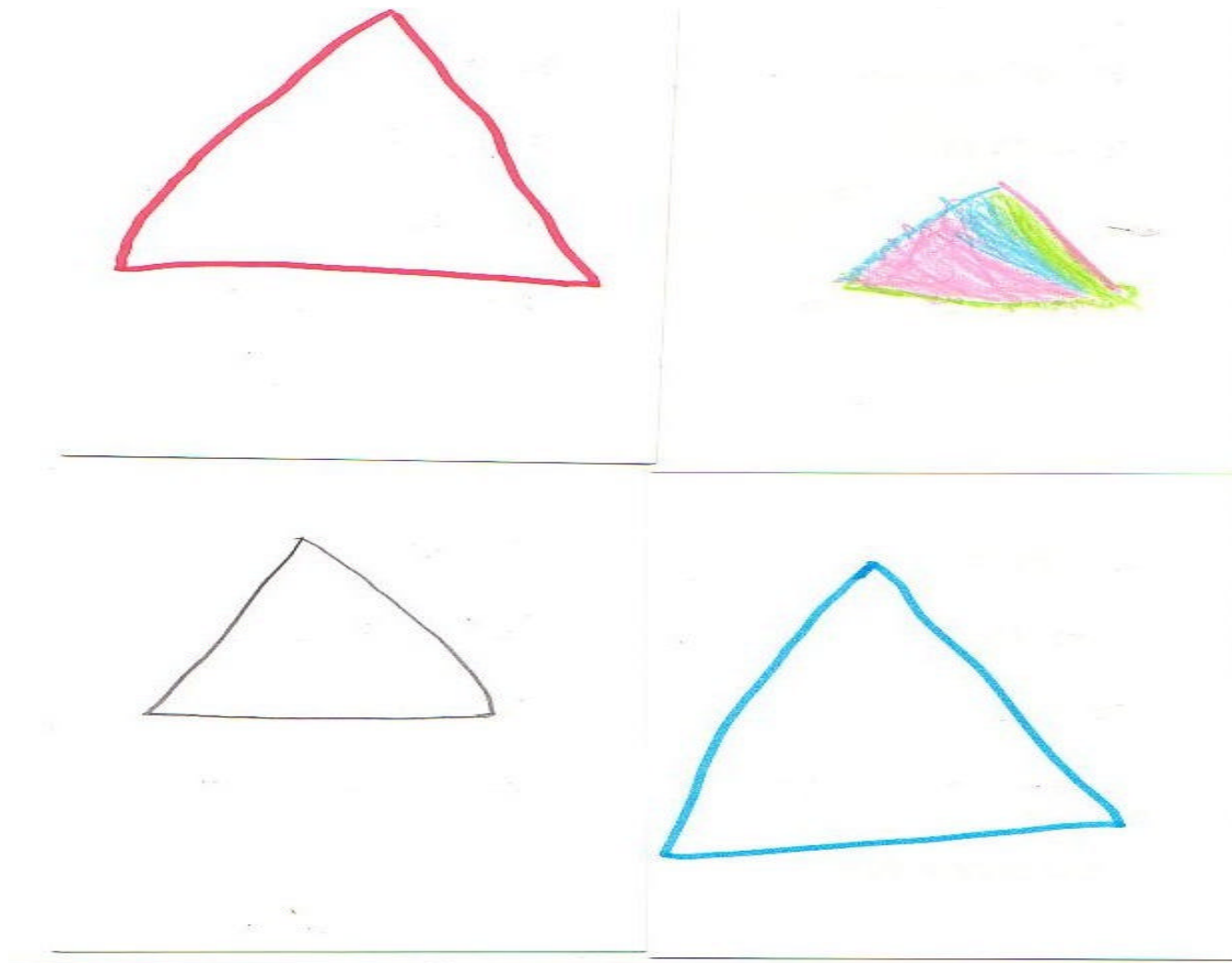
- ✎ 現在、朝起こすのが大変である (33.6%)、朝登園を嫌がることがある (19.5%)
夜コンピューターゲームをする (33.6%)
TVやビデオを一人で見ている (81.9%)
- ✎ 朝起こすのが大変な子どもは、登園を嫌がることが多い ($P < 0.05$)。
- ✎ 夜泣きがある子、夜コンピューターゲームをする子どもは、朝登園を嫌がることが多い ($P < 0.01$)
- ✎ 子どもと一緒に夜 9時以降のTV娯楽番組を見ている家庭では、夜子どもを連れて外出したり ($P < 0.01$)、子どもがコンピューターゲームをしていることが多い ($P < 0.05$)



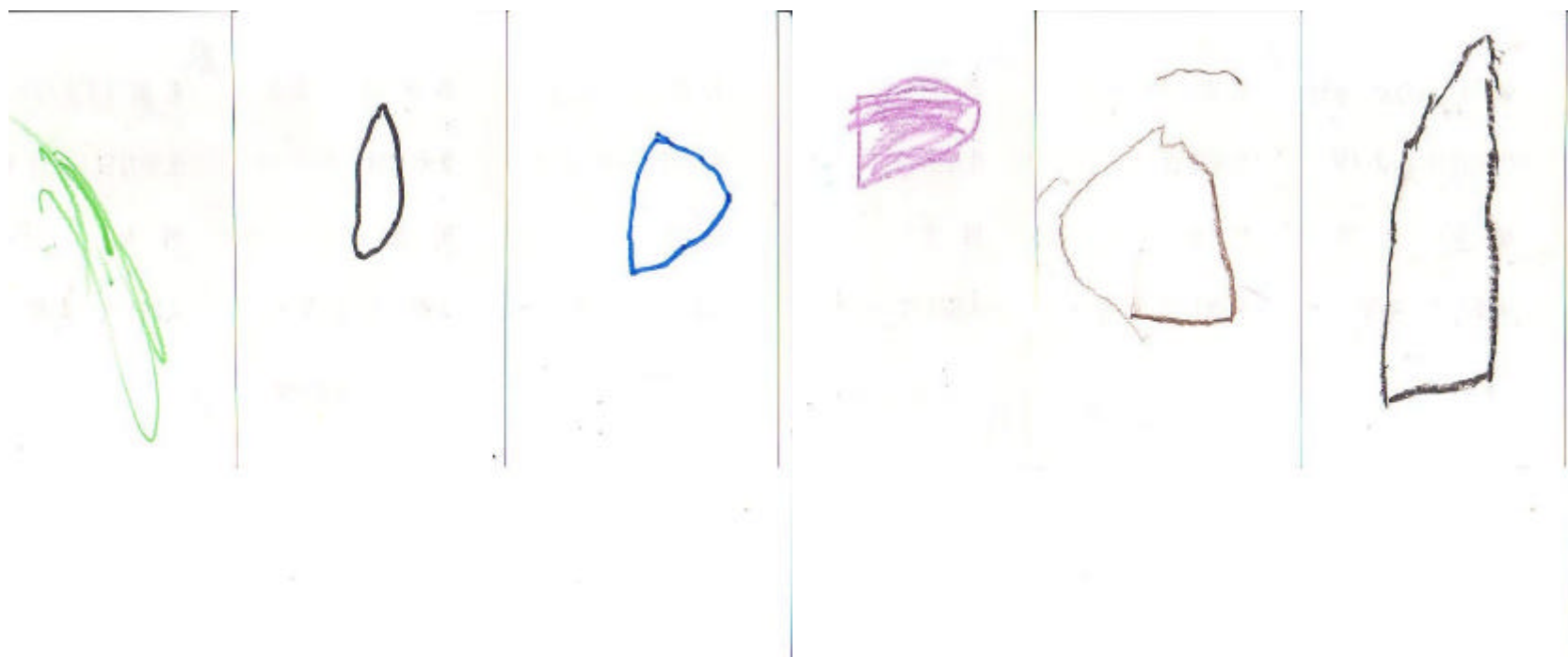
✎ 赤ちゃんの時の部屋の日当たりが良くなかったことと、赤ちゃんの時夜泣きがひどかった ($P < 0.01$)、現在夜泣きがある ($P < 0.01$)、家族の夕食時刻が決まっていない ($P < 0.05$)には相関がある。

✎ 赤ちゃんの時外で遊んだかどうかと、抱っこが好きだったか ($P < 0.05$)、現在、子どもの言動にいらいらするかどうか ($P < 0.05$)には相関がある。

結果 三角形の模写 (1)




三角形模写 (2)



三角形模写 (3)





独立性の検定 : 三角形と正常不整

正常群188名の中で三角形が描けなかった児23名

不整群34名の中で三角形が描けなかった児15名

2乗値20.631

2乗 p値<.0001

2乗値 (Yates補正)18.445

2乗p値 (Yates補正) <.0001

Fisherの直接法 p値<.0001

ロジスティック回帰分析

オッズ比 睡眠の正常不整で正常の児は不整の児に対して三角形を描けなくなる危険性が x 倍である。逆に言えば、不整の児は正常の児に対して $1/x$ のリスクを持つ。

	回帰係数	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B) (オッズ比)
月齡	0.0632753 55	0.0564 93	1.25453 2	1	0.2626885 72	1.06532
正常 不整	- 1.73291118 4	0.43319	16.00276	1	<u>6.32502E- 05</u>	<u>0.176769</u>

結果 保育者との面談調査

✎ 保育者が「気になる子」とは

- 1) 保育者の話を集中して聞けない
- 2) 保育者の話を理解していない
- 3) 活動をしていても持続力がない*
- 4) 姿勢が悪い (机に肘をついて身体を支える、すぐクニャっとなつてしまう 背筋を伸ばして体操座りが長続きしない等)*
- 5) 手足を振ってきちんと行進ができない*
- 6) 人の気持ちに気づかない*
- 7) 理由のない攻撃をするので目が離せない*
- 8) モノに対するこだわりが強い
- 9) 友達と協調して何かを作るなどの作業が苦手
- 10) 関心がある話題には大人顔負けの知識だが、他は無関心*



考察

- ✎ 5歳児の睡眠-覚醒リズムの形成には、乳児期からの養育環境の意識が重要である。
- ✎ 睡眠-覚醒リズムが不整な5歳児は、保育の場では「気になる」児であることが多い。
- ✎ 三角形模写が描けない5歳児は、保育の場では「気になる」児であることが多い。
- ✎ 三角形模写は、5歳児の睡眠-覚醒リズムの良否と関連があることが示唆された。